

別添6-5 (第3の2関係)

畜産GAP拡大推進加速化交付金の事業成果及び評価報告書(令和2年度)

都道府県名 富山県

目的	目標値				事業実績		備考
	目標値	実績	達成度	評価	事業費実績(円)	うち交付金相当額(円)	
I 日本版畜産GAP指導活動の推進	畜産GAP指導農業者数 8経営体	13	162%	A	ア. 日本版畜産GAP指導員の育成: 88,000 イ. 生産現場における研修会の開催: 12,580 ウ. 日本版畜産GAPの普及推進: 20,005	ア. 日本版畜産GAP指導員の育成: 88,000 イ. 生産現場における研修会の開催: 12,580 ウ. 日本版畜産GAPの普及推進: 20,005	令和2年度 目標達成済み
II 日本版畜産GAP等認証の取得拡大	畜産GAP認証の取得等経営体数 1経営体	0	0%	D	—	—	令和2年度、 3年度、 4年度未達成
<p>事業の成果</p> <p>I: 令和3年度に引き続き、13戸の県内の畜産農家及び農業高校に対して普及指導員が中心となり、畜産GAPに対する理解醸成と普及啓発を実施し、GAP認証取得を促した。</p> <p>II: 令和4年度は、JGAP指導員を2名追加し指導員の体制を充実させ、農家への指導を実施したものの、認証取得に向けた取り組みに誘導するまでには至らなかった。令和元年にGAPチャレンジ確認農場となった県立中央農業高校を、認証を進める対象経営体としていたが、「新型コロナウイルス感染拡大の影響」が令和4年度も続いたため、十分な活動ができなかったことから、令和4年度中の認証取得には至らなかった。</p>							
<p>都道府県による評価</p> <p>II: 令和4年度は、2名の指導員資格の新規取得により年度末には指導員17名となり、畜産GAP認証取得を支援する体制の強化を図り指導を行ってきたが、畜産GAP認証取得経営体数1戸の目標に対しては、認証取得までには至らず、実績は0戸であった。令和4年度もGAP認証取得は達成できなかったため「D」評価としている。今後は、関係機関と連携し継続的に、県立中央農業高校等GAP認証取得に関心を持つ経営体を中心に指導を行い、GAP認証取得へと誘導する方針である。</p>							
<p>国による評価</p> <p>II: 令和2年度事業の令和4年度における改善計画に基づくGAP認証取得経営体数の目標に対する取組の再評価については、未達であった。研修会の開催及び広域普及指導センターや家畜保健衛生所等関係機関と連携し、継続的に13戸の農業者、特に県立中央農業高校の学生や先生に対して指導を行い畜産GAP認証取得へ誘導したが、富山県内下での野鳥、隣県での家きんによる高病原性鳥インフルエンザの発生、富山県下での野生イノシシ豚熱PCR陽性に伴う防疫強化を図ったため、十分な指導体制がとれなかったことなどから認証取得までには至らなかった。このため、成果目標達成に向け、終期を令和5年度とした改善計画の提出を指導する。</p>							

別添6-5 (第3の2関係) 畜産GAP拡大推進加速化交付金の事業成果及び評価報告書 (令和2年度)

都道府県名 福井県

目的	目標値				事業実績		備考
	目標値	実績	達成度	評価	事業費実績 (円)	うち交付金相当額 (円)	
I 日本版畜産GAP指導活動の推進	畜産GAP指導農業者数 15経営体	15	100%	A	99,000	99,000	令和2年度に目標達成済み
II 日本版畜産GAP等認証の取得拡大	畜産GAP認証の取得等経営体数 1経営体	0	0%	D	0	0	令和2年度、3年度、4年度未達成
<p>事業の成果</p> <p>GAP認証取得に関心のある農家やGAPの実践による経営改善が必要な農家に対して、各農林総合事務所等の普及指導員がJGAP指導員(家畜・畜産物)と協力して指導したが、GAP認証取得にまでは至らなかった。</p>							
<p>都道府県による評価</p> <p>飼料価格高騰など畜産を巡る状況は厳しいため農家は前向きになれず、認証取得に向けた取り組みに誘導することはできなかった。このため、目標は達成できず「D」評価とした。</p> <p>今後は、6次化に取り組み、すでにHACCPを導入していて、記録・点検や評価などに抵抗の無い農家に重点的に指導を行ったり、飼料費など経営内の無駄をなくすこともGAPの取り組みの一つであることを強調したりして、GAP認証取得へと誘導していく。また、その他の農家に対しては、現場での具体的な改善事例を示すなど、農家取り組みやすくGAPに対する意識醸成が図られる指導を継続していく。</p>							
<p>国による評価</p> <p>II: 令和2年度事業の令和4年度における改善計画に基づく取組の再評価については、未達であった。福井県内下での野鳥、隣県での家きんによる高病原性鳥インフルエンザの発生、富山県下での野生イノシシ豚熱PCR陽性に伴う防疫強化を図ったため、十分な指導体制がとれなかったことなどから認証取得までには至らなかった。</p> <p>このため、成果目標達成に向け、終期を令和5年度とした改善計画の提出を指導する。</p>							

別添 7-5 (第3の2 関係)

畜産GAP拡大推進加速化交付金の事業成果及び評価報告書 (令和3年度)

都道府県名 富山県

目的	目標値				事業実績		備考
	目標値	実績	達成度	評価	事業費実績 (円)	うち交付金相当額 (円)	
I 日本版畜産GAP指導活動の推進	畜産GAP指導農業者数 8 経営体	18	225%	A	ア. 日本版畜産GAP指導員の育成: 110,000 イ. 生産現場における研修会の開催: 7,255 ウ. 日本版畜産GAPの普及推進: 244,029	ア. 畜産GAP指導員の育成: 110,000 イ. 生産現場における研日本版研修会の開催: 7,255 ウ. 日本版畜産GAPの普及推進: 244,029	令和3年度に目標達成済み
II 日本版畜産GAP等認証の取得拡大	畜産GAP認証の取得等経営体数 1 経営体	0	0%	D	0	0	令和3年度、4年度未達成
<p>事業の成果</p> <p>I: 令和3年度に引き続き、18戸に対して普及指導員が中心となり県内の畜産農家に対して畜産GAPに対する理解醸成と普及啓発を実施し、GAP認証取得を促した。</p> <p>II: 令和4年度は、JGAP指導員を2名追加し指導員の体制を充実させ、農家への指導を実施したものの、認証取得に向けた取り組みに誘導するまでには至らなかった。「新型コロナウイルス感染拡大の影響」が令和4年度も続いたため、十分な活動ができなかったことから、令和4年度中の認証取得には至らなかった。</p>							
<p>都道府県による評価</p> <p>II: 令和4年度は、2名の指導員資格の新規取得により年度末には指導員17名となり、畜産GAP認証取得を支援する体制の強化を図り指導を行ってきたが、畜産GAP認証取得経営体数1戸の目標に対しては、認証取得までには至らず、実績は0戸であった。令和4年度もGAP認証取得は達成できなかったため「D」評価としている。</p> <p>なお、関係機関と連携し継続的に、GAP認証取得に関心を持つ経営体を中心に指導を行い、GAP認証取得へと誘導している。</p>							
<p>国による評価</p> <p>II: 令和3年度事業の令和4年度における改善計画に基づくGAP認証取得経営体数の目標に対する取組の再評価については、未達であった。研修会の開催及び広域普及指導センターや家畜保健衛生所等関係機関と連携し、継続的な指導を18戸の農業者に対して行い、畜産GAP認証取得へ誘導したものの、富山県内下での野鳥、隣県での家きんによる高病原性鳥インフルエンザの発生、富山県下での野生イノシシ豚熱PCR陽性に伴う防疫強化を図ったため、十分な指導体制がとれなかったことなどから認証取得までには至らなかった。</p> <p>このため、成果目標達成に向け、終期を令和5年度とした改善計画の提出を指導する。</p>							

別添 7-5 (第3の2関係)

畜産GAP拡大推進加速化交付金の事業成果及び評価報告書 (令和3年度)

都道府県名 福井県

目的	目標値				事業実績		備考
	目標値	実績	達成度	評価	事業費実績 (円)	うち交付金相当額 (円)	
I 日本版畜産GAP指導活動の推進	畜産GAP指導 農業者数 10経営体	12	120%	A	49,500	49,500	令和3年度に 目標達成済み
II 日本版畜産GAP等認証の取得拡大	畜産GAP認証 の取得等経営体数 1経営体	0	0%	D	0	0	令和3年度、 4年度未達成
<p>事業の成果</p> <p>GAP認証取得に関心のある農家やGAPの実践による経営改善が必要な農家に対して、各農林総合事務所等の普及指導員がJGAP指導員(家畜・畜産物)と協力して指導したが、GAP認証取得にまでは至らなかった。</p>							
<p>都道府県による評価</p> <p>飼料価格高騰など畜産を巡る状況は厳しいため農家は前向きになれず、認証取得に向けた取り組みに誘導することはできなかった。このため、目標は達成できず「D」評価とした。</p> <p>今後は、6次化に組み込み、すでにHACCPを導入していて、記録・点検や評価などに抵抗の無い農家に重点的に指導を行ったり、飼料費など経営内の無駄をなくすこともGAPの取り組みの一つであることを強調したりして、GAP認証取得へと誘導していく。また、その他の農家に対しては、現場での具体的な改善事例を示すなど、農家が取り組みやすくGAPに対する意識醸成が図られる指導を継続していく。</p>							
<p>国による評価</p> <p>II：令和3年度事業の令和4年度における改善計画に基づく取組の再評価については、未達であった。福井県内下での野鳥、隣県での家きんによる高病原性鳥インフルエンザの発生、富山県下での野生イノシシ豚熱PCR陽性に伴う防疫強化を図ったため、十分な指導体制がとれなかったことなどから認証取得までには至らなかった。</p> <p>このため、成果目標達成に向け、終期を令和5年度とした改善計画の提出を指導する。</p>							

別添6-5 (第3の2関係)

畜産GAP拡大推進加速化交付金の事業成果及び評価報告書 (令和4年度)

都道府県名 富山県

目的	目標値				事業実績		備考
	目標値	実績	達成度	評価	事業費実績 (円)	うち交付金相当額 (円)	
I 日本版畜産GAP指導活動の推進	畜産GAP指導農業者数 8経営体	6戸	75%	C	ア. 日本版畜産GAP指導員の育成: 102,996 イ. 生産現場における研修会の開催: 924 ウ. 日本版畜産GAPの普及推進: 147,726	ア. 畜産GAP指導員の育成: 102,996 イ. 生産現場における研日本版研修会の開催: 924 ウ. 日本版畜産GAPの普及推進: 147,726	
II 日本版畜産GAP等認証の取得拡大	畜産GAP認証等の取得経営体数 1経営体	0戸	0%	D	0	0	
<p>事業の成果</p> <p>I: 令和4年度は、JGAP指導員を2名追加し、17名の指導員を中心に県内6戸の畜産農家へ畜産GAPに対する理解醸成と普及啓発を実施した。</p> <p>II: 畜産GAP認証取得に関心がある経営体をパイロット経営体として位置づけ、指導員及び関係機関が連携し、認証取得に向け始動したが認証取得の取組までには至らなかった。</p>							
<p>都道府県による評価</p> <p>I: 令和4年度は、2名の指導員資格の新規取得により年度末には指導員17名となった。しかし、飼料等資材の価格高騰への対応等により畜産GAPについての指導の機会が減り、計画の8戸に対し6戸への指導と目標未達となったことから「C」評価としている。</p> <p>II: 畜産GAP認証取得に関して、Iにより理解醸成に努めたが、「新型コロナウイルス感染拡大の影響」が終息しない中、対象経営体において、十分な活動ができなかったことから、実績は0戸であった。 このため、畜産GAP認証取得は「D」評価としている。 今後は、関係機関と連携し継続的に、対象経営体を中心に指導を行い、GAP認証取得へと誘導する方針である。</p>							
<p>国による評価</p> <p>I: JGAP指導員を2名追加し、令和4年度末には指導員が17名となり、指導体制は強化されたものの、富山県内下での野鳥、隣県での家きんによる高病原性鳥インフルエンザの発生、富山県下での野生イノシシ豚熱PCR陽性に伴う防疫強化を図ったことなどから、畜産GAP指導活動が停滞し、指導農業者数は6戸にとどまり、目標達成には至らなかった。</p> <p>II: 畜産GAP認証取得経営体数1戸の目標に対しても、十分な現場指導が行えなかったことなどから実績は未達であった。 このため、I及びIIの成果目標達成に向け、終期を令和5年度とした改善計画の提出を指導する。</p>							